

避難訓練チェック表

下に紹介するチェック表は、平成 23 年 6 月に京都府教育委員会が作成した「学校安全における防災に関する取組の見直しについて」に掲載されているものです。きめ細かい視点でチェックできるように作成されています。自校の避難訓練をチェックする際に、必要項目を選択して活用するとよいと思います。

- ・それぞれの項目で示した内容について各校（園）での取組を見直す際に使用してください。
- ・すべての欄を網羅することが主目的ではなく、自校（園）に必要な取組に見落としがないかチェックしていただくものです。
- ・チェックは 1 度だけで済ませるのではなく、学期ごとなど定期的に行うことが有効です。

チェックシート II-1 多様な想定に基づく避難訓練の検討と実施

視点：災害の種類		
地震（津波）	沿岸地域は津波も含む 災害レベルごとによる避難方法の検討	設定している
風水（雪）害	学校が直接被害に遭った状況の訓練	設定している
	警報等発令時の下校に関する訓練	設定している
火災	校内で火災発生の危険性が高い場所を適宜想定しての訓練 火災の規模も考慮	設定している
原子力災害	屋内退避、指定避難場所への移動訓練	設定している
視点：発生の時間帯		
授業中	教員の指導のもと活動している状況	設定している
休み時間	児童生徒等が教室を含む学校敷地内に分散し、教職員が近くにいない状態	設定している
放課後	児童生徒等が学校敷地内外に分散し、教職員が近くにいない状態	設定している
登下校時	教職員が速やかに児童生徒等を保護、指導できない状態	設定している
校外活動時	教員の引率のもと、学校を離れて活動している状況	設定している
視点：避難場所の設定		
学校内での避難	被災状況に応じた校内の避難場所	設定している
学校外（二次避難場所）への避難	災害の種類に応じて設定	設定している
学校内の避難経路	混乱が生じないように児童生徒等にも周知	設定している
二次避難場所への避難経路	複数の経路の設定	設定している
視点：災害の規模		
甚大なレベル	広域的に被災し、交通機関、通信機器が不通 緊急な救援等が困難な状態	設定している
重大なレベル	被害は発生しているが、ある程度の緊急な救援等は求められる状態	設定している
警戒レベル	被害発生には至っていないが、これから被害が予想される状態	設定している
注意レベル	積雪、強風、雷雨などで行動に注意が必要な状態	設定している

チェックシート		II-2 訓練方法の工夫	II-3 訓練後の検証
視点：訓練の工夫			
通常訓練	一般的な訓練		設定している
緊急訓練	予告なしで実施し、対応を検証する訓練		設定している
机上訓練	教職員による机上演習		設定している
	児童生徒等を含めた机上演習		設定している
<small>地域の関係機関・消防署・自主防 災組織等と連携した訓練</small>	関係機関・団体との合同訓練		設定している
集合・点呼訓練	全校集会等の児童生徒等が集合するときを利用した訓練		設定している
<small>関係諸機関・家庭への 緊急連絡訓練</small>	電話連絡、電話連絡網、電子メールの一斉配信などの訓練		設定している
視点：訓練実施後の検証（自校の評価項目の設定）			
避難の迅速性	目標とする時間等を設定しているか		設定している
人数確認の方法と迅速性	人数確認の正確性・迅速性等の目標を設定しているか		設定している
設備、器材等の点検	緊急時の放送機器は正常に機能しているか		機能している
	指示伝達手段は使用できる状態で整備されているか		整備されている
	情報収集機器は整備されているか		整備されている
	避難設備（救助袋、避難ばしご等）に不備はないか		不備はない
体制の円滑な運用	教職員は役割分担に沿って行動できていたか		行動できた
	不明児童生徒等・教職員の救助体制は確立されているか		確立されている
	負傷者の救護体制は確立されているか		確立されている

チェックシート		III-1 対応チームの編成
視点：危機管理マニュアルにおける対応チームの編成		
明確な役割分担	分担が錯綜することなく、明確になっているか。	明確である
<small>同系統の役割 への配置（固定化）</small>	同系統の役割を配置しているか。	配置している
教職員の熟知	役割を熟知し、円滑に行動できるか。	行動できる
役割のカバー体制	不在教職員がいる場合等のカバー体制がとれているか。	体制がとれている

視点：危険等発生直後		
教職員の対処行動	教職員自身が役割を理解し、即応できる(再掲 Ⅱ-3、Ⅲ-1)	できる
	担任不在学級が一目でわかる工夫をしている(再掲 Ⅱ-3)	している
	本部の指示内容が一覧にしてある	してある
	緊急放送設備の使用が可能である(定期的に点検しているか)(再掲 Ⅱ-3)	使用可能である
	危険等の情報・状況の共有の方法が確立されているか(再掲 Ⅱ-3、Ⅲ-1)	されている
行動のフロー図	フロー図を作成しているか	作成している
	掲示・携帯しているか	掲示・携帯している
視点：在校中の避難		
避難方法の共通理解	毎年確認しているか	している
下校判断	発生事案や状況別に下校体制を構築し、保護者と共通理解がとれているか	とれている
保護者への連絡	通常の通信機器が機能をしていない場合の連絡体制を複数確立しているか	している
備蓄品	学校待機が長引いた時の備蓄品を準備しているか	している
(参考)必要とされるもの 飲料水、非常食、生活用品(使い捨て食器等)、衛生用品(ウエットティッシュ、トイレトーパー、マスク、簡易トイレ等) 保温器材(毛布、使い捨てカイロ、新聞紙等)、その他(ブルーシート等) ※学校が避難場所となることも含め、当該市町村防災機関と調整して備蓄		
視点：被災場所別の避難方法の指導		
教室	机の下への避難の際の注意(机の脚の対角線を保持)	指導している
理科室・家庭科室	薬品・調理器具・火の取扱いの注意 机など身を隠す場所がない場合の注意	指導している
音楽室	机など身を隠す場所がない場合の注意 重量のあるピアノの危険性の注意	指導している
保健室	ベッドで休養している場合の注意	指導している
図書室	本棚の転倒、本の落下への注意	指導している
廊下・階段	窓ガラスからの安全な距離の保持 上階からの落下物の回避	指導している
運動場	遊具等の転倒に対する注意	指導している
体育館	落下物や窓ガラスに対する注意	指導している
トイレ	出口の確保に対する注意	指導している

チェックシート		Ⅲ－３ 登下校時、在宅時に発生する災害における対応	
視点：児童生徒等への指導			
安全指導	在宅時の避難方法を指導(避難場所の確認、家族との連絡方法等)しているか		している
	登下校時の避難方法を指導しているか (自宅・学校・地域の避難場所への避難の選択 等)		している
	定期的に地域の避難場所を確認しているか		している
視点：教職員の対応			
勤務時間外の対応	教職員の自宅から学校(避難場所)への距離等を考慮した集合体制を確立しているか		している
	学校(避難場所)への未到着教職員の状況確認と在校教職員による対応チーム編成ができる体制を確立しているか		している
教職員の地域分担	児童生徒等の安全確認のための地域分担を設定しているか		している
安全確認の方法	児童生徒等の安全確認の方法・体制を多重に確立しているか		している
避難場等の設置	学校が避難場所になった際の対応をしているか		している
視点：保護者等との連絡			
安全確認の方法	安全確認の方法を複数設定し、保護者に周知できているか		できている
被害発生後の連絡体制	通常の通信機器が機能しない場合、他の複数の連絡体制を確立しているか(再掲 Ⅲ－２)		している

下部にこの資料を直接取り出せるリンク先も紹介します。

<リンク先>

http://www.kyoto-be.ne.jp/hotai/cms/?action=common_download_main&upload_id=385